

「土木広報大賞 2019」応募用紙

団体名：岩手県立種市高等学校			
代表者氏名：松場 喜美夫		所在地：岩手県九戸郡洋野町種市第 38 地割 94 番地 110	
担当者情報	氏名：吹切 重則	所属部署：種市高等学校海洋開発科	
	電話：0194-65-2145	E-mail：ptf4-fukkiri-sigenori@iwate-ed.jp	
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・Web メディア部門	<input type="checkbox"/> アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input checked="" type="checkbox"/> 商業広告部門	<input checked="" type="checkbox"/> 企画部門
土木広報活動または作品名：「ヒロノジンと学ぼう。」～岩手県立種市高等学校海洋開発科：南部もぐり育成 P R ポスター～			前回の応募： <input type="checkbox"/> 有
<p>広報活動または作品の概要</p> <p>■作品概要</p> <p>本作品は、港湾工事や橋梁工事などの海洋土木工事や海洋開発などのインフラ整備に不可欠である潜水士「南部もぐり」と、潜水と土木の基礎を学ぶことができる全国唯一の学科である本校「海洋開発科」を P R するポスターである。</p> <p>ポスターは、洋野町（ひろのちょう）をはじめとした関係機関と連携し、平成 30 年度「南部もぐり養成応援プロジェクト」の一環で作成を進め、平成 31 年 1 月 15 日に完成した。</p> <p>国内外で活躍する潜水士を数多く輩出してきた本校の海洋開発科であるが、少子化に伴い、入学者数の定員割れが続いていることから、同科の認知度向上と入学者の確保を目的に作成したもので、作品を活用することで、歴史ある本校の存続と、本町発祥の南部もぐりの技術伝承や担い手育成につなげようとするものである。</p> <p>■デザイン</p> <p>作品の撮影は本校同科の水深 10m の潜水実習プールで行い、実際の生徒がモデルを務め、教員が水中カメラで撮影した。</p> <p>「ヒロノジン*と学ぼう。」をキャッチコピーに、水中で南部もぐりのダイバーと制服姿の生徒が机を並べて授業を受けるという日常と非日常が混在したインパクトのあるデザインにすることで、高校進学を控えた中学生をはじめ多くの人の目を引くことを意識したほか、学校生活や潜水授業、卒業後の進路などの情報を入れることで、入学後のイメージを持ちやすくし、本校への入学を促す作品に仕上げた。</p> <p>*ヒロノジンとは … 洋野町を広く P R するために考案された言葉で、「洋野人」をカタカナで表記したもの。本町発祥のヘルメット式潜水「南部もぐり」のダイバーを“町の象徴=ヒロノジン”とし、様々な P R 活動を展開している。</p> <p>■連携体制と期待される効果</p> <p>日本全国に約 3,300 人いる職業潜水士（その約 3 分の 1 が本校同科出身者）であるが、高齢化による潜水士減少への懸念と、東日本大震災以降の防波堤整備工事等の急増による潜水士不足により、後継者の育成が急務となっている。</p> <p>洋野町では、全国初となる東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの「海洋教育促進拠点協定」を締結したほか、本校や洋野町、(一社)日本埋立浚渫協会東北支部など関係機関 6 者*による「海洋</p>			



南部もぐり育成 P R ポスター (B2 版)

土木技術の持続的発展と担い手の確保・育成に係る包括的連携・協力に関する協定（6者協定）」を締結し、産官学が連携して、南部もぐりの担い手育成や本校の存続に向けた各種取り組みを進めている。

また、（一社）日本潜水協会などから寄付を受け、遠方からの入学者のために本校の学生寮が整備されたほか、企業版ふるさと納税制度による寄付金により、南部もぐりのPR事業や学生寮の運営を行う「南部もぐり養成応援プロジェクト」が展開されるなど、本校を支援する連携体制が構築されている。

本作品は、本校を含めた6者協定の連絡会議の中でコンセプトや方針が決定され、南部もぐり養成応援プロジェクトの一環で作成したものであり、本作品が多くの人に人の目に留まることで、入学者の確保はもとより、支援の更なる広がりや寄付額の増加による事業拡大の好循環が生まれ、本校同科の存続と海洋土木を支える潜水士の育成につながることを期待するものである。

※6者協定構成団体：本校、洋野町、岩手県、（一社）日本埋立浚渫協会東北支部、（一社）日本潜水協会、東北地方整備局港湾空港部



海洋開発科の実習風景。海洋土木を支える潜水士を全国に輩出している。

広報活動または作品の効果

1 ポスター3,000枚を作成し、平成31年1月と2月に県内外の中学校や関係機関などに配布してPRを図った（以降、必要に応じ随時配布）。

主な配布先：岩手県（159校）と青森県（162校）の各中学校（学校案内と学生寮パンフレットも同封）、本校海洋開発科生徒の出身中学校、国土交通省、（一社）日本潜水協会、（一社）日本埋立浚渫協会、近隣水族館、町内各公共施設ほか

2 ポスター作成後初となる令和2年度の学生募集に向けて、本校への関心が高まり、受験者や学校見学者などが増加することが期待される。（普通科への波及効果も期待される）

3 全体2位を受賞した岩手広告賞の講評では、「ビジュアルがすばらしい」「学校側の理解と協力がなければ成り立たないデザイン」「そこでしか作れないポスター。唯一無二のものは訴える力が強い」と高い評価を得ている。【受賞歴】岩手県広告協会主催 第50回岩手広告賞：県商工会議所連合会長賞（全体2位）

4 洋野町が平成29年度から展開しているタウンプロモーション事業により作成した、「ヒロノジンポスター」の移住編・観光編と合わせた3作品でのPR活動を展開しており、相乗効果を生んでいる。

5 多くの人の関心を引くことで、南部もぐり養成応援プロジェクトの財源となっている企業版ふるさと納税の寄付額が増加し、PR活動などの事業拡大の好循環が生まれることが期待される。（平成30年度寄付額：12件140万円）



ヒロノジンポスター 移住編（H29作成）



ヒロノジンポスター 観光編（H29作成）

付属資料の提出

有・無（どちらかに印（✓）を付けてください。）